一般国道421号「石榑

式辞を述べる藤本局長

近畿地方整備局は五月二十七日、一般国道四二一号「石榑峠道路」の起工式を滋賀県東近江市の東近江市永源寺地域産業振興会館で挙げた。同道路は三重県いなべ市大安町石榑南と滋賀県東近江市黄和田町を結ぶ延長約四・五㌔で、国土交通省が滋賀県と三重県に代わって権限代行事業として平成十五年度に事業化したもの。施工は大林・飛

待望の起工で万歳三唱する関係者㊤と鍬入れ

鈴鹿山脈をＮＡＴＭ

施工は大林・飛島ＪＶ

神戸市の公募型

名谷地区宅地整備な

9日まで参加申請受

神戸市は「名谷地区宅地整備工事（その二）」など二件について公募型指名競争入札（電子）を実施する。参加申請書の受付は九日まで。六月二

京都市

子どもの楽園実施設計

公募型 2日まで参加受付

京都市は「宝が池公園新・子どもの楽園実施設計業務」に公募型指名競争入札を適用する。参加希望申出書等の受付は二日まで、調度課工事契約担当で。六月九日入札通知、六月十六日入札予定。

主な参加資格は①市内本店②市の建設コンサルタント「造園部門」または「都市計画及び地方計画部門」に登録③平成八年度以降に都市公園実施設計の元請履行実績―など。

内容は宝が池公園「新・子どもの楽園」実施設計一式。場所＝左京区上高野流田町、他。履行期間＝一八〇日以内。

▽名谷地区宅地整備工事（その二）＝参加資格は①二～三社ＪＶ（一社以上は市内本店）②経審・土木の点数が代表者一、二〇〇点以上、構成員九五〇点以上―など。概要は河川改築（暗渠化）五〇〇㍉～一万〇、～3号コンベヤの撤去一式。工事場所＝須磨区高倉町のA号コンベヤ～弥栄台のC号コンベヤ。工期＝十九年二月二十八日。予定価格五億二千五百四十万円、低入札調査基準価格三億六千七百七十八万円。

枚方宿〝活性化へ確かな動き

変わろうとするまちを見学

まちづくり協議会

歴史文化の風情が薫る枚方宿のまち並みを見学

歴史文化の風情が薫る枚方宿地区で、歴史的建築を守りながら新しいまちづくりを進めている枚方宿地区まちづくり協議会（平澤英正会長）は五月二十八日、枚方宿で建物を貸す人借りる人、貸し借りを考えている人を募って、現地で直ぐに活用できる空き町家や昔ながらの町家店舗・建物の見学会を開催した。昔は旧東海道の宿場町として栄えた枚方宿の歴史街道を東から西へ向かって歩き、まち並みの保存や歴史のまちにとけ込める新町家づくりの動きを確かめた。

この日は、雲一つない青空で、というのではないが、晴れた。午前十時、岡本町公園（京阪・枚方市駅下車、ビオルネ前）に、協議会から藤田二郎枚方町家情報バンク代表（㈱ビオルネ代表取締役社長）、顧問の高田昇立命館大学政策科学部教授、枚方市職員ら関係者と、枚方宿で建物を貸す人借りる人、貸し借りを考えている人ら約五〇人が集まった。

見学会は二班に分かれ、それぞれ見学会をスタートさせた。高田教授、藤田代表らのグループではまず、未整備の大塚家賃店舗（約一五坪）前に立ち寄り、シャッターが降ろされた外観を見、これから修景事業が開始される計画を聞いた。この店舗が今年十月に枚方宿のまち並みに調和した店舗に生まれ変わる姿を想像し、新町家の誕生に期待を高めた。

続いて、枚方名物「あかつき」の呼人堂に立ち寄った。女将の田中誉子さん（協議会会計）は力強い口調で「皆様と一緒に力を合わせて生きたまちをつくりたい」と話した。田中さんからサービスで頂いた「あかつき」に感謝しながら歩き、即入居可能の新町家・交川家貸家（約一〇坪）へ。ここは歴史と現代の暮らしが見事にコラボレートされており、見学者の女性から「ステキなお家」という声が聞かれた。隣接する羽田家の貸スペース（約一〇坪）はギャラリーや教室、工房向けに一新され、どこか懐かしくて落ち着いた空間に仕上がっていた。

「力を合わせて生きたまちをつくりたい」と力強く語る呼人堂女将の田中さん（左から3人目）

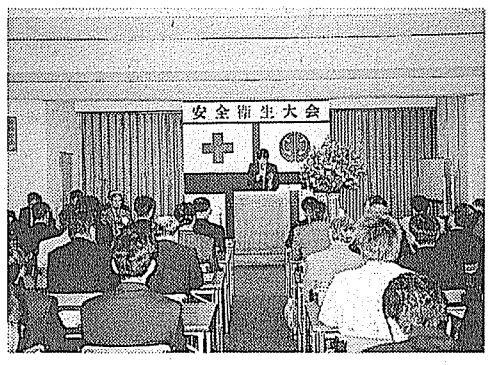
町家活用の相談に応じる高田教授（左端）

しっくい壁の町家が軒を並べている、現代にとけ込もうとするこのまちは独特な空気を醸している。これから改造される新町家には、どのようなショップが入居するのか、古着屋か、ショットバーか、それとも想定外のテナントか、変わろうとするこのまちの出来事に夢が膨らんだ。「このまちにとけ込むながら、やがて見学会の終点となる枚方宿鍵屋資料館に着いた。

見学会終了後、個別に町家活用の相談会が開かれ、デジタル画像による文化財の復元の仕事をしている大隈剛由さんが「一階でギャラリー、二階を仕事場として使える町家を活用して、枚方宿から活動の場を広めたい」というと、相談に応じた高田教授は「ニーズはあると思う」といい、「協議会の方々といい方向で進めたい」と心強い入居希望者に期待を寄せた。

高田教授の話　枚方宿には土地・建物所有者と利用したい人、行政と地元との連携が効果的にある。外部からこのまちに対する価値を、もう一度、評価させたい。

約350人が参加した安全大会



鴻池組大阪本店の安全大会

今年後半を無災害で

実践的で効率的な活動を

挨拶する天羽本店長

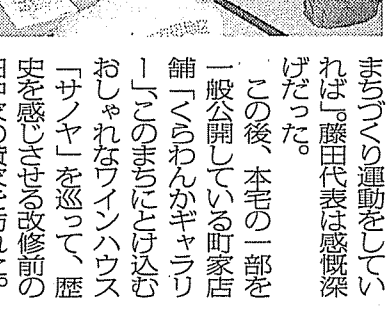
挨拶する協力会の渡辺会長

㈱鴻池組大阪本店（天羽良一本店長）の「平成十八年度安全衛生大会」が五月三十日、大阪市中央区の同社・十一階大会議室で同社大阪本店安全衛生協力会との共催で開催され、関係者ら約三五〇人の参加者は新たな決意で労働災害の防止を誓い合った。

大会では、最初に天羽本店長が挨拶に立ち「昨年は死亡・重大災害ゼロを達成し、休業四日以上の災害についても二件にとどまり、当初の目標を達成することができた」と昨年の安全成績を報告。そして、今年はこれまでに一件の災害事故が発生したことを紹介して「悲願の年間無災害は無理となったが、今年後半に向けて計画性のある実践的で効率的な安全活動を推進し、無事故無災害をめざしてほしい」と呼びかけて挨拶を終えた。

続いて、安全衛生協力会の渡辺睦翁会長も「建設業界を取り巻く環境は依然として厳しいが、いかなる状況下にあっても安全第一は企業経営の根幹に係わるものであり、これまでと変わらぬ努力が肝要」と挨拶。また、渡辺会長は熱中症の防止対策として、専安連（大阪建設専門業安全協力会連合会）などが推奨する防暑たれ（ネックガード）を現場の全作業員に協力会として無料配布することを報告した。

大会ではこの後も、大阪労働局の伊藤秀一・安全課長と㈱鴻池組本社の玉井啓悦・管理本部長による祝辞、職員及び協力業者に対する安全表彰、落語家の林家染丸さんの特別講演「笑いと文化～落語とかけて日本を解く」などが行われた。



断熱材の